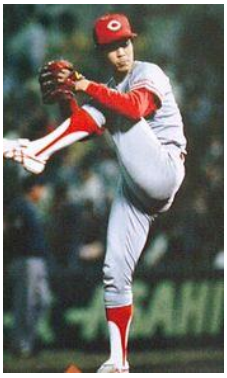
《 市球技大会に寄せて 》 **“ 弱気は最大の敵 ” 炎のストッパー「津田恒美」**



1993年に脳腫瘍のため32歳の若さで亡くなった元広島カープの津田恒美投手の記念館が広島市内に作られる。津田さんの長男・大毅さんがクラウドファンディングで資金集めを始め、現在も 1,000 人以上の支援者が名乗りを上げ、たくさんの支援金が集まっている。大毅さんが「津田恒美記念館」設立に向け動こうとしている話を聞いたのは昨年だった。ちょうど広島のリーグ優勝目前に津田さんの妻・晃代を取材した時に「実家を記念館にしたいと言っているんです。これまでは津田さんのいろんな行事に行くのも“何で俺が行くの!?”と、嫌がっていたんです。それが180度違うからもうビックリです」と聞いた。

25 年ぶりのリーグ優勝をきっかけに、ファンが今でも津田さんのことを思っていることを知った大毅さんが、ファンや父に恩返しと考え記念館設立を思い立った。大毅さんは現在、自転車で日本一周をして記念館設立をＰＲしている。「来年の命日までに‥」と開館に向け全力投球している。

7月20日は、津田さんの命日だ。亡くなって24年が経とうとしているが、いまだにカープファンにとって忘れられない存在。「命日の前後に1年に1回、津田さんを思い出していただこうと思っています」。山田雅人さんは、7月広島県民文化ホールで語りの世界「津田恒美物語」の舞台公演を行う。広島での公演は今年で8回目。毎年、満員の大盛況で今年も前売り券は完売だそうだ。

脳腫瘍が発覚した 1991 年の優勝は、まさに津田さんがチームを結束させた。それは、元気だった津田さんがみんなから愛されていたからだ。86年の優勝時には胴上げ投手にもなった。先発の北別府学投手が胴上げ投手を譲ったことが、津田さんがどれだけ愛されていたかを証明している。

当時の投手コーチでデイリースポーツの評論家でもある安仁屋宗八氏は「北別府はマウンドに交代を告げに行っても後ろを向いて代わろうとしないピッチャーだった。自分より力のないピッチャーだったら代わろうとしない」と語ったことがあった。そんな北別府氏が唯一、納得して交代したのが津田さんだったという。胴上げ投手を譲ったときも「北別府が了承しなければ代えてないだろう」と安仁屋氏は言う。マウンドで闘志むき出しに打者に向かっていく映像はよく目にする。そんな表情とは裏腹にひょうきんで気遣いを忘れなかった津田さんの人間性にほれこんだ仲間は多い。

クラウドファンディングの返礼品に現在のユニホームのレプリカ津田バージョンがある。大毅さんは球団に許可をもらうため何度も広島に通ったという。「日本一周が終わったころに返礼品を発送したい」という大毅さん。父の残した功績の大きさを実感しながらペダルをこいでいる。 「デイリースポーツ」

❤ Happy Birthday 10／１‥ 新 皆人君 10／２‥名和 武 君 10／３‥神谷 柚希君
10／５‥中根 颯汰君